


バーチャル投資

「iモード」使った株式ゲームが人気 携帯電話ならではのメリットが注目集める

11月23日からNTTドコモの携帯電話の増設サービス「iモード」で始まった株式投資ゲームが人気になっている。当初、12月31日までの募集期間の間に5000人の登録を予想していたが、開始からわずか1週間で約6000人がサービスに入会した。この「Try@Trade（トライ@トレード）」という名前のサービスを提供するのはインターネットで投資情報を提供するケイゾン（大阪府豊中市）だ。

入会するには、iモードでケイゾンのサイトに接続して接続ID（身分証明）、電子メールアドレス、電話番号、ニックネームなどを入力する。「携帯電話のダイヤルボタンでこれらの情報を入力するのはちょっと面倒。本当は今この時点で現在の10分の1くらいしか入会者が来ないのではと心配していました」とケイゾンの神山昌昌社長は予想を上回る反響に喜びを隠さない。ネットを利用した株式投資がブームになっていることが追い風になって、参加者が急増したようである。

ゲームの内容はこうだ。まず登録者には假想の運用資金1億円が元手として渡される。それを現実の上場企業の株式に投資して運用する。対象は東京証券取引所もしくは大阪証券取引所の1部か2部に上場している銘柄と店頭公開している銘柄。ただし18歳以上という年齢制限がある。期間は1999年11月22日～2000年1月31日までの間で、その間の運用成績をユーザー同士が競い合う仕組みだ。成績が上位の人には、シャープの携帯情報端末

「ヤケルス」などがプレゼントされる。

ゲーム提供の3つの狙い

ケイゾンは既に今年の6月から8月にかけて同様の仮想的株式取引ゲームをインターネットで実施しており、約6000人が参加した。iモード版の株式投資ゲームへの参加者の数は国内のイ



携帯電話で手軽に株式投資を体験できる

ンターネット利用者が2000万人に達しているのに対して、iモードの利用者が約10分の1の200万人余りであることを考えると極めて反響が大きいと言える。インターネット版のゲームでは、住友銀行が明証承認証券会社と合弁で始めたDIJダイレクトSFG証券がスポンサーになっており、優勝者の賞品はBMWのスポーツカーだった。

このような株式投資ゲームをケイゾンが提供する狙いは3つある。1つはポータル（玄関口）サイトとしてケイゾンのホームページへのアクセスを増やすことで広告収入を得ることだ。そして投資に関する様々な情報を提供する

ことで日常的にケイゾンの利用者を増やそうとしている。現実にケイゾンは10月からは株価検索サービスを開始している。

3番目の狙いは、ゲームに参加するために登録者が入力したデータをデータベースに蓄積し、マーケティングに利用することだ。例えば、既に10数社がサービスを開始しているインターネット証券会社のマーケティングには、ケイゾンが入手した登録者の情報は役に立つ。これらの登録者には必要に応じて電子メールなどで随時アンケート調査を実施することもできる。

3番目は実際に仮想取引で株式に投資した人から、投資先の企業の情報公開に対する姿勢をアンケートして「株（投資家向け広報）活動のコンサルティング事業を始めることだ。「既に何件か引き合いが来ており、早い時期にコンサルティング事業をスタートさせたい」と神山社長は自信を見せる。

更にもう一つ予想外のメリットがあった。ケイゾンの株式投資ゲームを見た日本の証券会社は「使い勝手を評価して「システムを譲渡してほしい」という依頼が舞い込んできたのである。「まさに聞かされた餅のような話だが、既に日本の大手証券会社と地方の証券会社、そして外国との合弁証券会社の3社からシステムを開発した賛成会社に注文が来ている」と神山社長は話す。

ユーザーの増加に伴い競争と新たなサービスがスタートしているiモード。株式投資のように常に株価をチェックして売買することが必要なサービスは、どこにいても持ち運べる携帯電話に向いているようだ。小さく軽い携帯電話だからこそ速く普及するサービスは意外にたくさんある。（山崎 真良）